郷土愛でまちづくり
―上越・糸魚川地域の意識改革プロジェクト―

芝浦工業大学 工学部 土木工学科
秋山　岳、市川健太、水澤孝宏
教授　岩倉成志

新潟県上越地域の特徴

海・山・川　四季の変化　自然豊かな地域

上越地域は新潟県南西部に位置し、富山県・長野県と隣接しています。この地域は山が海にまでせり出し、その合間を縫うようにして川が流れ、豊かな自然を体験することができる土地です。国内有数の豪雪地帯でありながら、夏は緑が茂み、秋には稲穂が実るなど四季の変化も豊かです。

▲山際が海岸まで迫り出す親不知

▲夜桜で有名な高田公園の桜

様々な文化を有する個性ある地域

また、かつての城下町であった高田、港町の直江津、宿場町であった糸魚川など、独特の文化を持つ複数の地域があり、平野部には田園が広がり、酒造も存在し、沿岸部には漁村が連なるなど、様々な歴史や伝統を持つ地域でもあります。

▲糸魚川駅

▲直江津駅

北陸新幹線開通により　都心へのアクセス性が向上

また、２０１４年度には北陸新幹線が金沢まで延伸する予定です。これによりこの地域にも新幹線が通り、上越駅（仮称）（JR脇野田駅付近）と糸魚川駅に２つの駅ができます。現在は駅舎のデザインが決定し、建設が進められています。

糸魚川駅周辺▲

▼脇野田駅周辺

2014年度開業予定区間
（長野～金沢）

	現況	開業時
上越－東京間	140分	95分
糸魚川－東京間	160分	110分
上越－金沢間	115分	50分

故郷を愛し、教育熱心な地域性

新潟県民は総じて故郷に対する愛情が強いように感じます。就職や就学、さまざまな理由で県外に住んでいる人たちも、可能ならば地元で暮らしていたいと考えている人が多いと思います。上越地域もその例に漏れず、地元愛の強い人間が多いと感じています。

また、新潟県全体として、米百俵の逸話のように、歴史的に見て教育熱心な体質があり、これまでも大都市に優秀な人材を供給してきました。

上述のように、上越地域には多くの魅力が存在し、地域の出身者は地元を愛しているという大きなポテンシャルを秘めていると考えます。

地域の課題とこれからの目標像

地域に対する理解－郷土愛が強く、多くのポテンシャルを秘めた土地－

まず、先に述べた上越市に対する私たちの理解をまとめると、以下の5点にまとめられます。

- **新潟県民は郷土愛が強く、可能であれば地元で暮らしたいと考えている。**
- **しかし、地域の活力となる資源や観光地には疎く、必ずしもポテンシャルを理解していない。**
- **歴史的に教育に力を注ぐ地域で、優秀な人材を輩出する力を持っている。**
- **太平洋側では体験できない、マルチな自然を体験できる環境が整っている。**
- **在来線、高速道路、さらに北陸新幹線が整備され、地域間交流の潜在力がある。**

将来への懸念－地域の活力の低下－

日本の多くの地域と同じように、この地域でも少子高齢化が進行しています。就業や就学の関係で地元を離れてしまい、若い世代の人口が少なくなっています。

また、新幹線が通ることで、都市との時間的距離が短縮されて便利になる一方で、他の地域との競合も避けられなくなります。

今後は地域のポテンシャルや魅力を活かした街づくりの手法が必要になると考えます。

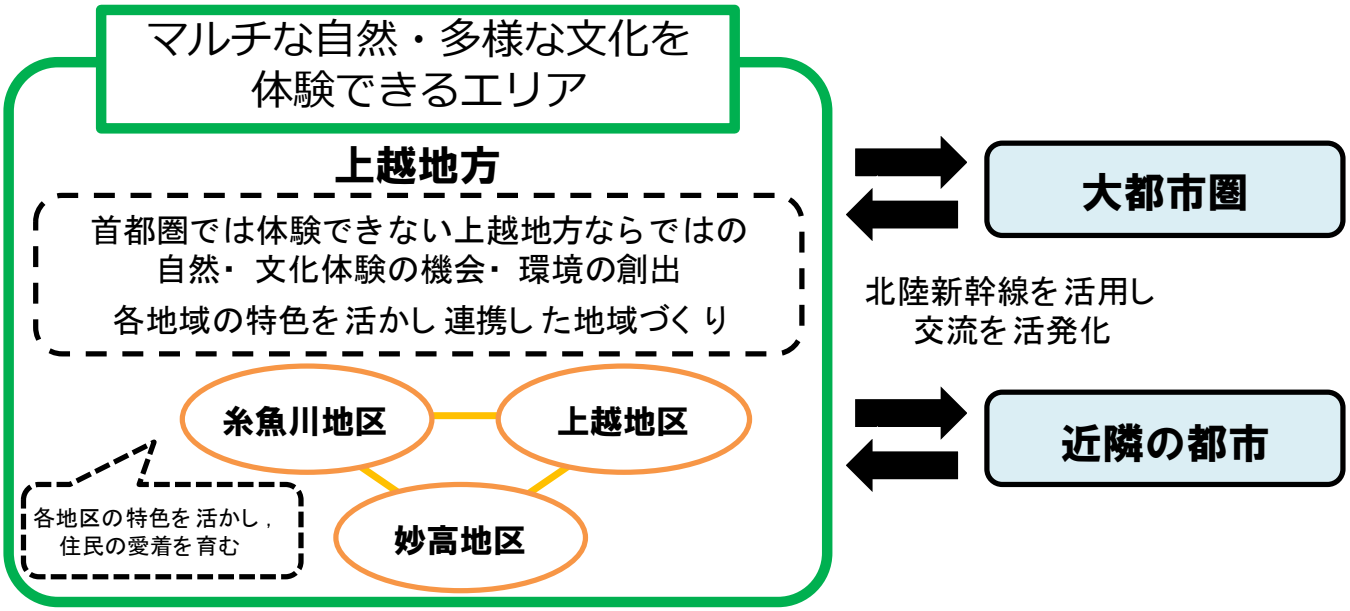
▲活力が衰退する糸魚川駅前商店街

“郷土愛”を育み、地域の魅力を活かしたまちづくり

私たちは上越地域にあるさまざまな魅力と、地元に対する郷土愛の強さを活かしていくことが、今後の上越地域に必要だと考えます。地域に住んでいる人たちだけが頑張るのではなく、地域の外に住んでいる出身者たちが地元の活性化に貢献できるような環境づくりも必要と考えます。

下図は私たちの考える、上越地域を他の地域との将来的な関係図を示したものです。地域の中では、住民が地域の魅力を理解し、各地区間での連携強化や役割を理解することが必要と考えます。

また、地域の外部にいる出身者が発信塔となり、外部との交流を活発にしていくことが、いつでも地域に活力のある状態を作り出すためには必要だと考えます。



このような考えのもと、私たちは１年間かけて研究活動を行いました。具体的には、上越市役所・糸魚川市役所へのインタビュー、上越出身者ではない大学生を交えての現地調査、地元紙・新潟日報からの地元情報の収集、地元出身者へのアンケート調査、東京の小学生を対象とした街づくり学習とその効果検証のための追跡調査です。

次ページからはそれらの活動について紹介します。

活動内容

ヒアリング調査―地元自治体の施策を知る―

対象地域のまちづくりの計画や北陸新幹線延伸に伴う開発に関しての情報を得るために、上越市および糸魚川市にヒアリング調査を行いました。

【上越市】

・新幹線駅が建設される脇野田駅周辺を開発し、現在のまちの中心地である高田・直江津に続く、上越市の玄関として新たな中心地の形成を図る。
・地元産業の体験プログラムをつくり、来訪客を呼び込む。

【糸魚川市】

・既存の駅舎に増築する形で新幹線駅舎を建設する。大規模な駅前開発は行わないが、駅にアクセスするための新たな道路・駅前広場の整備は行う。
・世界ジオパークに認定された観光資源を活かし、観光地やアクセスルートの整備、観光ルートの設定などを行い、来訪客を呼び込む。

地元紙による情報収集調査―地域の情報を知る―

地元紙『新潟日報』から、新潟県内の時事的な情報を収集しました。主に、①地域活性化に係る記事、②北陸新幹線に関する動向、の二つの視点から記事を収集しました。

①地域活性化

・地域のイベント、観光資源に関すること
・学校教育に関すること
・NPO団体や企業の活動に関すること　　など

②北陸新幹線の動向・活用の方法

・新幹線開通に伴う開発、観光事業の構想
・並行在来線は、地域内交通のあり方について
・住民の意向調査の結果　　など

地元紙からの情報収集▼

糸魚川
初のジオパーク全国大会
普及へ交流深める

三和中
竹炭の出来に満足
高田農高生と炭焼き

「市に愛着」8割超え
上越市政アンケート
観光や就労対策は低調

フィールドワーク―東京の大学生に地域の魅力を知ってもらう―

この地域の出身者ではない学生によるフィールドワークを行いました。上越地域全体は広範囲に渡るため、フィールドワークのエリアを糸魚川市に限定して行いました。フィールドワークを行ったうえで、グループに分かれてもらい、魅力だなと感じたところをまとめてもらい、さらにその発信の方法を考えてもらいました。

①フィールドワーク

糸魚川市の観光資源である「ジオパーク」や市街地をめぐったり、海・山・川の自然に触れ、地域の魅力を発見してもらいました。

②活性化の方法の検討

フィールドワークでの発見を活かし、グループごとに、地域の魅力を発信、活性化に導く方法を考えます。

③発表会

グループごとに考えた内容を発表しあいました。

≪提案された内容≫

○YouTubeを利用した**情報発信**
○ジオパークを活かし、日帰り･2～3日コースなど
ニーズにあった観光ルート開発
○学生を対象にした**社会科見学の環境整備**
○観光資源に対しての**住民意識の向上**、共通認識を持たせる
○駅前商店街の一体的整備と**観光客にも合わせた店舗**整備

活動内容

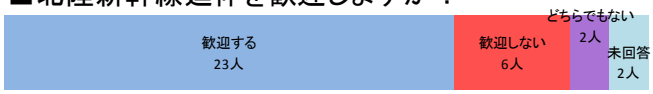
アンケート調査　－地元出身者の意向を探る－

地元住民および地元出身者に対してアンケート調査を行いました。この調査は、2010年6月18日に東京で開催された高田高校同窓会と、2010年8月18日に地元で開催された糸魚川高校の同窓会を通じて実施させていただきました。調査の内容は、①居住や就業に関すること、②北陸新幹線延伸に関すること、③地元の魅力・不満、④活性化手法　です。

ここではそのアンケート調査の結果の一部を紹介します。

地　元　居　住　者

■北陸新幹線延伸を歓迎しますか？



【歓迎する】
・ジオパークの面から観光客を増やすこともできる

【歓迎しない】
・地域にとってメリットが少なく、建設費が多大
・それほど早く東京にいく必要性を感じない

■北陸新幹線延伸で旅行回数は増えますか？

【増える】
・行動範囲が拡大するので
・近い都市（上越）まで15分でいけるから

【変わらない】
・移動手段が自動車なので

■地元以外での就職を考えましたか？

【考えた】
・大学が東京だったから

【考えていない】
・生まれ育った場所で働きたいと自然に考えていた
・故郷を盛り上げたい　　・長男だから

■あなたの考える地域を元気にする方法を教えて下さい。

・地理的、交通アクセス的には好立地と思うので、企業誘致をして、優秀な人材を呼び戻していくことが必要
・ジオパーク、海水浴場、スキー場をもっとアピールして、若い人たちを呼び込む観光策が必要

■地元に居住する魅力はなんですか？

・人情味がある　　・四季がはっきりしている
・高速道路、新幹線により交通アクセスが良い
・海の幸、山の幸など食べ物がうまい

関　東　居　住　者

■北陸新幹線延伸を歓迎しますか？

【歓迎する】
・便利になる、加えて上越地域の活性化の模索願いたい

【歓迎しない】
・通過地点になってしまい、不都合と感じる
・市街地、商店街の一層の空洞化が懸念されるため

■北陸新幹線延伸で帰郷回数は増えますか？

【増える】
・高齢になり、マイカーでの帰郷が困難になれば利用し、便利で早いので回数も増えると思う

【変わらない】
・帰省するときに利用したとしても、増えはしない

■地元での就職を考えましたか？

【考えた】
・生まれ育った土地だから、地元で働きたい

【考えなかった】
・希望する職種が見つからなかった、中央で仕事がしたかった
・将来は戻りたいと思ったが就職は首都圏を考えていた

■あなたの考える地域を元気にする方法を教えて下さい。

・高校の同窓会、東京での開催はネットワークを築くことに貢献している。若い人の参加が少ないので、これからも持続させるべき
・まずは教育レベルの向上が必要
・米、魚介類、酒などの食をもっとアピールすべき。
・「癒されるふるさと」をコンセプトに、温泉・自然・史跡・伝統体験の組み合わせが効果的と考える

より詳しいアンケート結果については、別途資料を作成していますので、ホームページからご覧ください。

私たちはこれらの活動を踏まえ、地元を元気にする方法を考えました。その提案内容を次のページから紹介します。

施策提案　ー小・中学生中心とした教育プログラムー

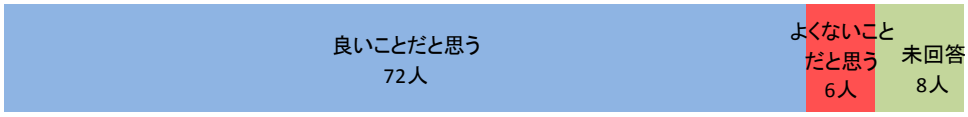
提案の背景と趣旨

アンケート調査やフィールドワークの結果から「地域の魅力を発信する方法」が重要であり、地域外の人に地域のことを知ってもらう機会を増やすことが必要だと感じているということがわかりました。

【アンケートからの意見】
- 上越特有の歴史、文化、観光をもっとPRすべきだと思います。
- 上越⇔首都圏の人材・情報・交流の場づくり。
- 大々的に宣伝を行い、より多くの人が上越地方を訪れるよう企画する。
  都会人が望むのは「癒されるふるさと」だと思う。

また、アンケート調査において上越地域のこどもと都市圏のこどもとの交流の機会を設けることについて、肯定的な意見が多く、それが有意義なものであると考えられます。

■上越地域と都市圏のこどもの交流の機会を設けることについてどう思いますか



【賛成意見】
- 異なる環境を知ること、多様な考え方を知ること、知識の水準や多様性を知ることは相互に刺激となり、成長への糧となると思う。
- 東京都の接点を見出せるから。
- 互いの違いを知ることは自分を知ることにもつながり、成長にはよい刺激と考えるから。

そこで、義務教育期間中に地元の魅力を十分に理解し、そして地域外部の人たちと係る機会を設けるために、**地域ぐるみの教育プログラム**を提案します。

先進事例　ー小学５年生を対象としたまちづくり学習ー

近年、全国各地で将来のまちを担う人材育成を目的に**小学生を対象として「まちづくり学習」**が行われています。

2004年度に日本橋にある中央区立常盤小学校の5年生を対象に実施されたまちづくり学習は、特に先進的な事例としてあげられます。

ここで行われたのは、**こどもたちが自ら日本橋の魅力を発見**し、それにもとづく**日本橋の理想のまちを考える**学習です。当時の児童たちはこの学習に対して、全員がこれからの日本橋のまちを良くしていきたいと感じています。右表はまちづくり学習の授業内容です。

▼まちづくり学習の内容

STEP	授業内容
①	**日本橋を知る（地域のことを正しく理解）** インターネットや図書など様々な情報を収集・整理
②	**日本橋をみる（現地視察）** ステップ①で情報を整理したうえで、実際に地域を見学
③	**日本橋の未来を考える（発想を整除し提案作成）** KJ法から問題を整理し、提案を作成
④	**日本橋の未来をつくる（模型作成）** ステップ③で提案を模型としてカタチに創出
⑤	**模型を発表する（プレゼンテーション）** 自分たちの提案をまちの方にわかりやすく伝える

まちづくり学習によって学習直後に**高められたまちづくりへの関心は**、高校2年生となった2010年度においても**持続している**という追跡調査の結果が得られました。まちづくり学習では、自分たちの理想のまちを提案することで、高校生の時点で将来自分ができることやその方法を考える助けになるということがわかっています。

初等教育だけではなく、中学教育でも段階的にまちづくり学習を継続的に実施し、自分たちのできることを実践することによって学習の効果が高まると考えられます。上越地域でのまちづくり学習でも、長期的にみてまちに関心をもつ大人を増やすこと、また短期的にみて**こどもから周囲の大人への波及的な効果が期待**されます。

▼追跡調査の結果、まちづくり学習から、5年経っての関心度

2010年度（高2）追跡調査　N＝19	YES	NO
まちに興味をもつようになった	14	5
まちづくりに関心を持つようになった	12	7
地域行事に参加するようになった	5	14

提案する教育プログラム

地域ぐるみの教育プログラムー学校教育を通して住民みんなで地域を考えるー

小学校・中学校教育のなかで、地元の魅力を発見し、郷土愛を育むことのできる教育プログラムを導入をめざします．小・中学校という義務教育期間を利用することで、

①地域に住む全生徒がプログラムに参加でき、地元のことを知るチャンスを全員に与えることができる。

②小学生・中学生のときに受ける刺激は、印象が強く心に留まる． といった効果を狙います。

STEP 1　地域のことを知る

まち歩きを行い、地域のいいところと悪いところを探します。

【対象学年】小学5年生　　【対象範囲】各小学校学区内

【方法】**遠足**や**総合的な学習の時間**を利用して学区内を**散策**し、実際に自分の目で見て情報を集めます。また、**商店街などでの聞き取り調査**を行うことで、地域の人と係る機会を創出します。最終的にKJ法を使用するなどして「魅力的なところ」「悪いところ」に分け、まとめを行います。

【ねらい】自分たちの身近な範囲に何があるのかを把握してもらいます。また地域の人と係ることで、大人も一緒に地域を見直す機会をつくります。

発表会：地域内の小学校全体で発表会を開き、**地域の住民にも出席**してもらいます。自分の住む地域にどんな場所があるのかを知る機会をつくります。

Another STEP　地域のことを発信する

地域外の小学生を招き、STEP1の経験から、地元の魅力を地域の外の児童に伝えます。

【対象学年】小学校高学年　　【対象範囲】各小学校学区内

【方法】地域外（首都圏）の小学生を招き、現地を案内するなど**地域のことを紹介**します。現在、自治体が設定している農業や地場産業の体験コースなどを利用し、一緒に体験することで、双方が地域の文化に触れます。

STEP 2　地域の理想を考える

STEP1の経験を踏まえて、どんなまちにしたいのかを考えます。

【対象学年】小学6年生　　【対象範囲】各小学校学区内

【方法】数人のグループに分かれ、STEP1で収集した情報から、**理想のまちのコンセプト**を決めます。そのコンセプトを体現するためには、地域のどのような魅力を引き出し、悪いところを改善しなければならないかをみんなで考えます。

【ねらい】地域の特性を知った上で、こどもたちが理想とするまちの在り方を具体的に考えてもらうことで、数ある魅力や改善点の中で、**地域に活力を生み出すためにどのような要素が必要なのか**を考える機会をつくります。

発表会：同様に地域内の小学校全体で発表会を開き、どんな理想のまちが考えられるのかを共有し、地域のことを考える機会をつくります。

STEP 3　地域を元気にする方法を考える

これまでの経験を活かして、どうすれば地元に活力がある状態が続くのかを考えます。

【対象学年】中学生　　【対象範囲】各中学校学区内

【方法】小学生の時に知った各地域の魅力について情報交換し、地域全体の特色を把握します。また、地元紙や文献から地域の情報を収集し、客観的に地域を捉えます。それらの情報から自分たちで出来る**「地域を元気にする方法」**を考えます。

【ねらい】中学校の学区は複数の小学校学から構成されます。ここで、いろいろな地域があることを理解し、どうしたら**地域全体に活気が出るか**、その方法を考えてもらいます。これにより、地域の中のどんなことが魅力であり、活かすことができるものなのかを知ることができます。

発表会：地域内の中学校全体で発表会を開きます。ほかの中学校区で考えられた活性化の方法を知る機会を設け、視野の広さを身につけることを狙います。行政担当者や市長を招き、自治体に声を届ける機会とします。

展　望

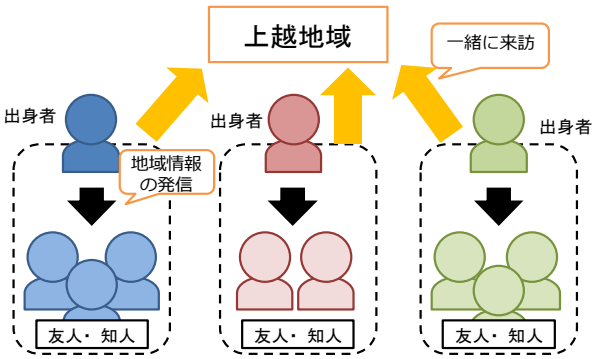
ゆくゆくは『一人ひとりが観光大使』に　ー地元ではない場所に住む出身者もまちづくりに参加しようー

小中学校での教育プログラムにより、地域のことを知る機会をつくり、**上越地域の魅力を**知識として蓄えることができ、**人に伝える基盤が整う**と考えます。

もしも将来、地域の外に出て行ったとしても、出身者**一人ひとりが地域の魅力を伝える発信塔**となり、友人や家族と一緒に上越地域を訪れることで、より多くの人に地域の魅力を伝える機会の創出につながります。また、定期的に地元を訪れることで、地元の状況をコンスタントに知ることができます。

今後、北陸新幹線が開通し、関東圏とのアクセスが格段に良くなり、容易に行き来ができるようになります。そして、**一人ひとりが観光大使**となり、地元を元気にしていくことに貢献できるのではないでしょうか。

地元を元気にしていくには、**内側・外側双方からの働きかけ**が大切と考えます。



課　題

①活性化手法の実施スキームの構築

生徒たちが考えた地域の活性化手法を、実際に行う団体が必要です。考え出されたことが実際にまちづくりに反映されれば、自分たちの行動が街に活力につながることを知り、自信ややる気につながると考えます。

②関係団体との調整

提案したプログラムを実際に行うためには、小中学校・教育委員会・地元商店街・役所などの関係団体と調整の必要があります。また、授業時間を使用することになり、どの程度の時間を確保する必要があるか、どのようにプログラムを進めていくかなどの綿密なスケジュールの構築が重要となります。

③現場で指揮をとる教員への負担軽減

総合的な学習の時間が小学校教育に導入され、比較的その内容が確立されてきているので、新たなプログラムを導入するにあたり、教員への負担や時間数の調査などが必要です。可能な限り現場の負担を軽減することが大切と考えます。

④費用捻出方法

また交流プログラムについては、移動・宿泊の費用が発生するため、この資金の確保の方法を確立させる必要があります。

⑤地域内交通インフラの整備

上越地域内の在来線はJR直江津駅を境に分断されています。また各地区内においては、路線バス以外に公共交通手段がなく、自家用車が主要な交通手段です。したがって、観光客のためのバスルートや、新幹線・鉄道・バスを連携させた運行体系を考慮する必要があります。

おわりに

この度の活動に際し，助成をいただきました，山口育英奨学会（新潟県），芝浦工業大学，また，アンケート調査にあたりご協力いただいた，和久井博氏，永野敏郎氏，平田輝満氏，アンケートにご回答いただいた皆様，ならびにヒアリング調査にご協力いただいた上越市役所，糸魚川市役所の方々に，深く御礼申し上げます.

2011年8月13日